

平成30年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第9号

平成30年8月8日発行

宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html>

- ・高温が予想される場合は用水の確保状況を勘案しつつ、水温の上昇を抑える水管理を行いましょう。
- ・出穂した水田内で斑点米カメムシ類が多発しています。穂揃期とその7~10日後の2回防除を徹底しましょう。

1 管内の出穂状況（8月6日現在）

- ・生育調査ほ・本吉ひとめぼれ及び志津川ひとめぼれでは8月2日に収穫期を迎えました。だて正夢は8月6日に収穫期を迎えました。
- ・8月6日現在、管内の収穫の進行率は74.2%となっており、8月4日に収穫期（50%）を迎えました。
- ・8月1日頃収穫したほ場では穂揃期を迎えています。

表1 管内の収穫状況

水稲作付 見込面積 (ha)	8月6日現在 収穫状況		進行月日			(参考)平成29年度		
	収穫面積 (ha)	進行率 (%)	収穫 始期	収穫期	穂揃期	収穫 始期	収穫期	穂揃期
910	675	74.2	8/1	8/4		8/2	8/7	8/15

注1) 収穫始期,収穫期,穂揃期は,それぞれ水稲作付見込面積の5%,50%,95%以上が収穫した日である。

注2) 平成30年度作付見込面積は,農産環境課でとりまとめた主食用米の作付見込面積を用いた。

2 気象の概況

- ・7月中旬以降,気温が高く,降水量は少なく推移しています。

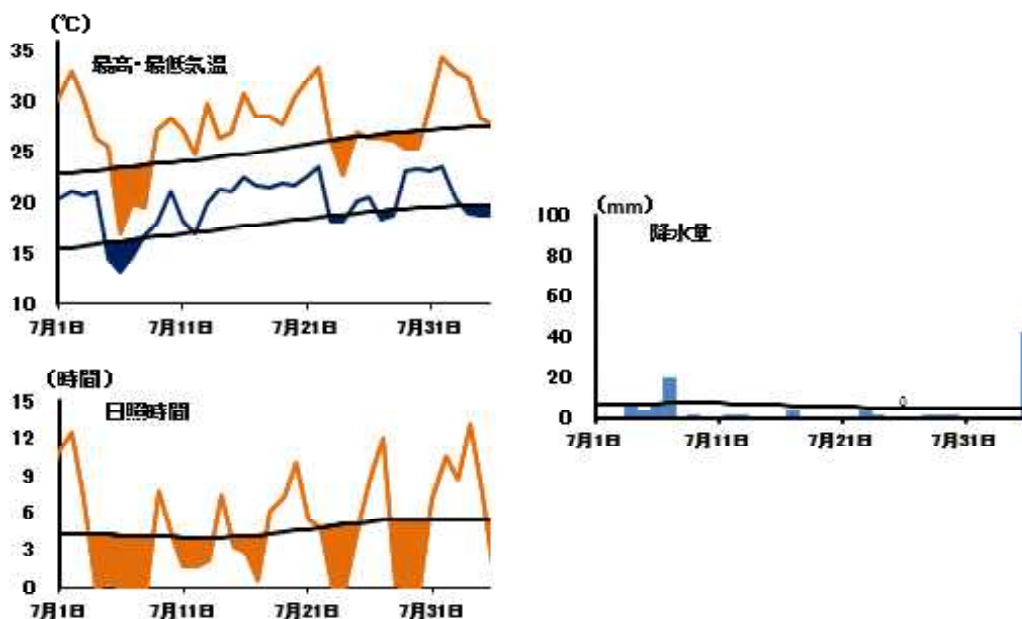


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：7月1日～8月5日）

3 直播栽培普及展示ほの生育概況（鉄コーティング湛水直播）

- ・気仙沼市本吉町の直播栽培普及展示ほでは、草丈は平年並、莖数は平年よりやや少なく、葉数は1.0枚少なくなっています。

表2 直播栽培普及展示ほ生育調査結果（8月1日）

品 種 地区名		播種日	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	本 年	5月15日	69.0	429.7	10.8	26.8	22.4
気仙沼市（本吉町）	平年比・差	+1	99%	77%	-1.0	79%	-3.6

注）平年比・差（参考値）は平成26年から平成29年までの4か年の平均値と本年調査結果の比較。

4 今後の管理の留意点

【水管理】

- ・出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと、稲体の消耗による登熟不良や白未熟粒の発生等による品質の低下が懸念されます。また、出穂後10日間の最高気温が高いほど、胴割粒の発生が多くなる傾向があります。

○高温時の水管理について

次の（1）または（2）により、本田内の水管理を徹底してください。

（1）昼間深水・夜間落水管理

晴天等の高温時においては昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法です。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9時～10時頃に入水し、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましいとされています。

（2）走水等により田面を常に湿潤状態に保つ飽水管理（用水の確保が難しい地域）

出穂後の水管理を飽水管理で維持することによって、昼間落水・夜間深水管理ほどの効果は得られませんが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できます。

○落水時期について

落水時期は出穂後30日前後としましょう。

【病虫害防除】

表3 病虫害発生予報第8号（平成30年8月6日発行、宮城県病虫害防除所）

病虫害名	発生時期	発生量
穂いもち	-	やや少
紋枯病	-	やや多
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	(水田侵入始期) -	多

- ・詳細については、県病虫害防除所ホームページ病虫害発生予報を参照願います。

(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/h29yosatsu.html>)

①いもち病

- ・いもち病の発生が確認されていないほ場でも丁寧にほ場を観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・茎葉散布により穂いもち防除を行う場合、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行ってください。なお、本年は出穂が平年よりも早まっているので、防除のタイミングに注意してください。

- ・葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発するおそれがある場合や、出穂期間が長引く場合には3回目の防除を穂揃期の7～10日後に実施してください（表4）。

表4 穂いもち防除薬剤の防除適期

剤の種類	防除適期
予防粒剤	出穂20～10日前
茎葉散布剤	1回目 出穂直前
	2回目 穂揃期
	3回目 穂揃期の7～10日後

注) 茎葉散布剤の3回目防除は、葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発するおそれがある場合に実施。

②紋枯病

- ・県病害虫防除所から防除情報第5号（紋枯病）が発表されました（平成30年8月3日）。紋枯病の発生が多くなっています。発病株が多いほ場では、穂揃期に防除しましょう。
- ・茎葉散布剤による散布適期は穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率5%、被害発生確率50%の場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達している場合は、遅れずに防除を行ってください（表5）。
- ・株元に薬剤がよく付着するよう十分な薬量を散布してください。

表5 紋枯病防除要否の判定基準（普及に移す技術第90号）

被害許容水準	穂ばらみ期の発病株率	
	ひとめぼれ	ササニシキ
収量5%以上減収	18%	10%
収量3%以上減収	12%	9%
収量1%以上減収	10%	3%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%
白未熟粒1%以上増加	11%	



図2 紋枯病の病斑

（宮城県病害虫防除所）

注) ほ場での発病株率の調査は、畦畔際とする。

③斑点米カメムシ類

県病害虫防除所から注意報第1号（斑点米カメムシ類）が発表されました（平成30年8月3日）。出穂した水田内で斑点米カメムシ類が多発しています。穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう。

○出穂期以降の防除対策（薬剤防除）

- ・薬剤による防除は、「穂揃期（※1）とその7～10日後」の2回散布が基本です。なお、出穂が平年より早まっているので、防除のタイミングに注意してください。
- ・イヌホタルイが発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。
- ・2回目の防除以降も斑点米カメムシ類の発生が見られる場合は追加防除を実施してください。
- ・水稻の出穂後に畦畔や水田周辺の草刈りを実施する場合は、草刈り後直ちに本田の薬剤防除を実施してください。
- ・薬剤防除は個別に実施するよりも、無人航空機や共同一斉防除により広域的に実施すると効果が高いので、地域内で協力し、一斉防除を行うよう努めましょう。



図3 アカスジカスミカメ

（宮城県病害虫防除所）

○斑点米カメムシ類第1回目の防除適期について



- 左の写真のように穂の先端が止葉葉鞘から出た状態の茎が、ほ場全体の5～10%程度の時期を「出穂始」(※2)、40～50%程度の時期を「出穂期」、80～90%程度の時期を「穂揃期」(※1)とといいます。
- 「出穂始」は「穂揃期」の約5～6日前です(※2)。
- 一般的には、穂が完全に伸びきった時期を「穂揃期」と呼んでいることが多いようですが、正しい時期を理解して適期防除を心がけてください(※1)。

5 今後の気象

東北地方 1か月予報
(8月4日から9月3日までの天候見通し)
平成30年8月2日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】 東北地方	10	40	50
【降水量】 東北地方	30	40	30
【日照時間】 東北地方	40	30	30

<気象経過の各階級の確率(%)>

	低い	平年並	高い
1週目 東北地方	10	40	50
2週目 東北地方	20	30	50
3～4週目 東北地方	20	40	40

<予報の対象期間>

1か月：8月4日(土)～8月27日(日)
1週目：8月4日(土)～8月10日(金)
2週目：8月11日(土)～8月17日(金)
3～4週目：8月18日(土)～8月31日(金)

6月1日～8月31日は「農業危害防止運動」の実施期間です。

- ・気仙沼・南三陸稲作情報第8号(平成30年7月26日発行)について、生育調査ほ調査結果に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。正しくは以下のとおりです。
本吉ひとめぼれ：葉色32.7(平年比100%)、幼穂長42.4mm(+23.1mm)
直播ひとめぼれ：茎数464本/m²(平年比83%)
- ・次号の「気仙沼・南三陸稲作情報」は9月上旬の発行を予定しています。